

SIA エンジニアリング・カンパニー(SIAE)

戦略的提携の合併事業含む企業グループはコロナ禍前を
 超えて拡大。合併事業の更なる多国籍化・拡大を期待
 シンガポール | 輸送事業・サービス | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG SIE:SP | REUTERS SIAE.SI

- 2023/3通期は、売上高が前期比40.6%増、例外的要因を除く調整後純利益は黒字転換。3月のチャンギ空港航空便数はコロナ禍前79%に回復。
- 子会社および戦略的提携の合併事業を含めた企業グループ全体の通期売上高は2020/3通期比で6%増と、コロナ禍前を越えて成長拡大。
- 同じ親会社の空港運営サービス大手SATSが欧州航空貨物大手を買収。それに伴い、同社の戦略的提携に伴う合併事業の更なる多国籍化を期待。

What is the news?

5/8発表の2023/3通期は、売上高が前期比40.6%増の7.96億SGD、営業利益が前期の▲21.8百万SGDから▲26.3百万SGDへ赤字幅拡大、関連会社および合併企業からの持分法投資利益が同1.6%減の77.8百万SGD、純利益が同1.8%減の66.4百万SGD。前期に計上した政府からの貸金支援金および関連会社および合併企業における一時的な税金引当金の戻入れといった例外的要因除いた調整後純利益では、前期の▲47.4百万SGDから55.2百万SGDへ黒字転換と実質好調だった。

チャンギ空港で管理された路線メンテナンスのフライト件数は前期比2.2倍の10万5139件。月次ベースでは3月の航空便数が新型コロナ禍前水準比で79%まで回復した。シンガポール格納庫で実行された検査は、軽度の検査数が同220件増の568件、重度検査数が同1件増の94件。フィリピン・クラーク国際空港の格納庫における重度検査数は同8件増の32件。

通期の事業部門別の売上高は、エア・フレーム点検およびライン整備事業（ライン整備とベース整備を含む）が前期比39%増の6.44億SGD、エンジンおよび部品事業が同51%増の1.51億。

同社、子会社および関連会社と合併企業を含めた企業グループ全体の通期の売上高は、前期比22%増の67.30億USD。2020/3通期比では6%増とコロナ禍前水準を超えた。

How do we view this?

中国による国境を跨ぐ移動の規制緩和といった大きなプラス材料があるものの、既に航空便数がコロナ禍前水準の80%近く回復していることから24年3月期の回復ペース減速が想定されるほか、航空機キャパシティ不足や人員スタッフ確保も容易ではないという制約も懸念される。

同社は3月末現在、戦略的パートナーシップとして8か国に跨り22の合併事業に出資。22年5月にマレーシアの同業SRテクニクスの75%を買収した一方、同年8月にボーイングとの合併事業（アジア太平洋航空サービス）の運営を停止するなど出資対象の入替えによる再編を進めている。

また、筆頭株主の政府系投資会社テマセク・ホールディングス傘下には同社と同じくシンガポール航空の子会社である空港運営サービスのエスエーティーエス(SATS)があり、欧州拠点の航空貨物大手会社を昨年買収。同社の戦略的提携に基づく合併事業の成長拡大に繋がる余地も考えられよう。

配当予想(SGD) **0.08** (予想はBloomberg)
 終値(SGD) **2.46** 2023/7/10

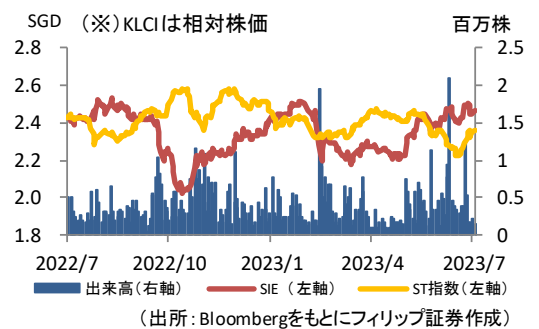
会社概要

1992年にシンガポール航空のエンジニア部門から分離独立し、その子会社となったアジア有数の航空機MRO（メンテナンス、修理、オーバーホール）業者。

同社は、以下の4事業をコア事業とする。①ライン整備は7か国30の空港で展開。②ベース整備ではシンガポール（チャンギ国際空港）に6つの格納庫、フィリピン（ルソン島のクラーク国際空港）に3つの格納庫を擁するなどグローバルMROネットワークを擁する。その他に、③部品サービス、④エンジンサービスの4事業をコア事業とする。

20以上の「装備品等基準適合証」を受けて、国際的な航空会社や航空宇宙会社に一括統合ソリューションを提供している。大型機、小型機を問わず広範なMROサービスを提供し、シンガポール・チャンギ国際空港を経由する60社以上の航空会社にライン整備サービスを提供。現在、合併事業と子会社のMROネットワークにより、世界中の航空会社に対する統合的なMROサービスとネットワーク・サポートの範囲を拡大している。

ベータ値 1.07
 時価総額(百万SGD) 2,776
 企業価値=EV(百万SGD) 2,269
 3か月平均売買代金(百万SGD) 0.9



主要株主(2023/6) (%)

- 1.テマセク・ホールディングス 77.41
- 2.ブラクホック 0.61
- 3.VANGUARD GROUP 0.51

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhito.sasaki@phillip.co.jp

業績推移

※参考レート 1SGD=105.08円

事業年度	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3F	2025/3F
売上高(百万SGD)	443	566	796	957	1,051
当期利益(百万SGD)	-11	67	66	104	145
EPS(SGD)	-0.01	0.06	0.06	0.09	0.13
PER(倍)	-	41.00	41.77	26.17	19.37
BPS(SGD)	1.37	1.43	1.49	1.52	1.56
PBR(倍)	1.80	1.72	1.65	1.62	1.58
配当(SGD)	0.00	0.00	0.06	0.08	0.11
配当利回り(%)	0.00	0.00	2.24	3.05	4.27

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。